

シンポジウム5 東海大学医学部の高気圧酸素治療の卒前 教育と日常診療

猪口貞樹

東海大学 救命救急医学

【沿革】

東海大学医学部では、1975年の開院時より中央診療部門に2種装置を有する高気圧酸素治療室を設置し、兼任の室長と装置操作担当者(1980年より専任)のもとで治療を開始しました。1998年より、所属組織を救命救急センターに変更、救命救急センター長が責任者を兼務しており、2003年からは臨床工学技術科に所属する複数の臨床工学技士が装置の操作を担当しております。また2015年より治療室および治療装置の改修工事を行い、2016年4月に新しい2種装置へ更新しました。予算は、付属病院の予算です。

【卒前教育】

卒前教育としては、医学部2年生の臨床応用物理学で2時間「高圧酸素装置とその適応①、②」の講義を臨床工学技士(認定技師)が行い、4年生の救命救急科臨床講義のうち「急性中毒」「環境障害」の一部として急性一酸化炭素中毒、減圧症に関するHBO治療について教員が講義を行っています。また5年生の救命救急センターでの臨床実習時に該当患者があれば、見学を行っています。

【診療の現状】

治療の対象は、入院・外来患者の両方で、年間治療件数(2014年度)は111例、急性一酸化炭素中毒48例、間欠型一酸化炭素中毒2例、減圧症10例、突発性難聴18例、難治性下腿潰瘍・壊死11例、網膜動脈閉塞症13例などです。

装置の稼働状況や院内の取り決めなどについては、救命救急センター運営委員会において、報告・審議しており、「病院運営マニュアル」に記載されているほか、必要に応じて院内に通知文書を発出いたします。院内には高気圧環境・潜水医学会専門医2名(救急科専門医)が配置されており、非救急的適応の患者の安全性の確認、適応の可否は、原則として専門医にコンサルテーションしています。

救急治療の際には、主治医・担当医が患者に付き添い(非救急時には装置の外に待機)、技師2名で治療を行い、外来の非救急患者については、初回治療時のみ同様の扱いを行っています。緊急時には、速やかに救命救急センターより複数の医師が駆け付けて対応する体制になっていますが、HBO装置の事故に関するマニュアルは現在未整備であり、今後の課題と考えています。